

平成27年度 新見市 ICT 活用教育推進事業

授業研修会報告書

※※※※※※※※ 教 科・日 時・実施校・参加者数 ※※※※※※※※

- (1) 音楽科
平成27年11月 6日 (金)
新見市立新見第一中学校
23人
- (2) 数学科
平成27年11月13日 (金)
新見市立哲多中学校
28人
- (3) 英語科
平成27年11月18日 (水)
新見市立大佐中学校
31人
- (4) 保健体育科
平成27年11月26日 (木)
新見市立新見南中学校
34人
- (5) 技術科
平成27年11月27日 (金)
新見市立神郷中学校
30人
- (6) 美術科
平成27年12月 4日 (金)
新見市立哲西中学校
24人

(1) 音楽

平成27年11月 6日 (金)
 新見第一中学校 2年3組
 授業者 本守妃佐子 教諭

題材名 リズムの反復、変化、重なり方のおもしろさを味わおう

本 時 案 (第二次第2時)		
本時の 目 標	「おうまがとおる！」のリズムに類似したリズムアンサンブル曲をつくることのできる	
学習活動	教 師 の 指 導・支 援	学 習 評 価
1 リコーダーのしりとりをする。	○音列を聞き取れない生徒も、運指を示すことで吹くことができるようにする。	タンギングができている。 音列を工夫して吹いている。
2 前時の復習をする	○2, 3人にTPCのリズム譜を見ながらリズム打ちをさせる。	
3 本時の目標を知る。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 3組のリズムアンサンブル曲をつなげてつくろう ～やせがえる まけるな一茶 これにあり～ </div>		
4 (1) 班に分かれてつくる部分を確認する。 (2) 班で話し合って4小節の上下2パートのアンサンブル曲をつくる。	○曲の構成に気付かせそれぞれの部分の特徴を生かせるようにする。 ○班ごとのに曲全体のどの部分をつくるか指定する。 ○反復や重なりなど工夫して組み合わせているか、机間支援で確かめる。 ○各班TPC 2台使用(各パート1台) ○Drop boxに保存させる。 ○班ごとに発表練習させる。	◎工夫してリズムを組み合わせている。 <TPC> 【音楽表現の 創意工夫】
5 班でつくった曲を発表する。	○IWBに班でつくったリズム譜を表示する。 ○班ごとにヴォイスパーカッションで発表させる。	
6 リズムアンサンブル曲をつなげて表現する。	○各班が順番に続けて発表し、3組としてのリズムアンサンブル曲を完成させる。	◎リズム曲がつくれたことや、班で組合せたことなどを書く。 <ノート> 【音楽への意欲・ 関心・態度】
7 振り返りをする。		

音楽公開授業の振り返りとまとめ

本公開授業では、参観者全員が TPC の Evernote を使用して、授業を参観しながら気の付いたことをその都度メモしていきました。メモには後で分類しやすいようにタグをつけておき、研究協議の際の話し合いの資料としました。

※本収録には、ICT活用に係る部分を中心に収録しています。※

1. 授業でのリアルタイムコメント

音楽指導や表現活動に関すること

- ・どのようにリズムが仕上がるのか楽しみでした。生徒達も班ごとに積極的に取り組んでいて、特徴を生かした曲に仕上がっていたと思います。
- ・1時間の流れが示されていて、何をするのかわかりやすい。
- ・授業の流れが示されていて、生徒が活動しやすい。
- ・クラスのテーマの確認を丁寧に行っていた。多分生徒はうまくしてくれると思う。
- ・本時の活動の説明はわかりやすい。生徒はよく聞こうとしている。
- ・それぞれの班の特徴が出ていて良かったです。
- ・リコーダーの導入はスムーズでした。
- ・最後の発表は最初は声小さかったが、数を重ねるにつれ少しずつ大きくなっていったのでよかった。

協働学習に関すること

- ・グループ活動に参加しにくい生徒を、リーダーがしっかり引っ張っていました。
- ・TPC の操作の仕方を班の中で教えあう雰囲気が良かった。
- ・しっかりとグループで良いものにするための話し合いが出来ています。
- ・リーダーを中心に話し合いができていました。
- ・どのようにリズムが仕上がるのか楽しみでした。生徒達も班ごとに積極的に取り組んでいて、特徴を生かした曲に仕上がっていたと思います。
- ・練習で気付いたことを生徒が互いに出しあっていた。意欲を感じます。
- ・リズム打ちの練習はよく頑張っていました。

ICT利活用に関すること

- ・クラウドって凄い便利ですね！
- ・発表の際の、ICT 支援員さんのサポートが良かったです。
- ・ICT 支援員さんのおかげで、リズムがうまく切り替わる。
- ・アプリの使い方は生徒がよく知っていた。
- ・生徒は TPC を器用に使って（教えあって）リズムを作っていました。



2. 研究協議より

- ・大勢の参観者や報道関係者が見ていた中で、生徒は大変協力的に、落ち着いて授業に臨んでくれた。
- ・本時に向けての ICT 支援員さんのバックアップが功を奏して、指導者の ICT に対する不安があっても授業が効果的に成立することができた。指導者の「これをやってみたい」という意欲と周囲のサポートが、ICT 利活用には必要であることが改めて感じられた。
- ・ICT については多くの意見が集まり今後の改善に役立てると思う。生徒の意欲、雰囲気作りに活用できればと願っている。
- ・リズム譜の音が出るアプリの方が、効果がある。適切なアプリを見つけていきたい。
- ・全体発表を録音してみんなで聞くことを前もって生徒に知らせておけば、少しは生徒も気持ちが高まったと思う。最後の発表に向けて、やる気を引き出す工夫を随所に見せてほしい。
- ・本時の授業の評価はどうか。生徒はどう感じているか。音楽の表現活動としてみるとやや物足りない。生徒が次はもっとよいものにしたいという気持ちが湧いてくれたらよいのだが。
- ・表現活動に関しては、これまでの継続した指導が大切で、課題や工夫すべき点があった。
- ・アップル TV の表示は IWB のフル画面表示にならないものか。現状では小さすぎる。
- ・IWB の画面サイズでは、上下 2 段の楽譜を見やすく表示することは難しいのでは。
- ・IWB の画面はもう少し見やすくないものか。特に音符や文字など、他教科でも同じことが指摘されている。指導者の工夫も必要だが、ハードウェア的にも検討してほしい。
- ・TPC の接続台数を増やしていくと、一中の規模ではネットワークが不安定になることがある。これは光ファイバーの容量に限界があるからか。容量を増やす方向で検討したい。



(2) 数学

平成27年11月13日(金)

哲多中学校 2年

授業者 安田 敬裕 教諭

本時の学習指導 ●主題 多角形の角 (本時はその第2時)
 ●目標 n 角形の内角の和を表す式から考え方を読みとり、説明することを通して、内角の和の多様な求め方の理解を深める。

段階	学習事項	生徒の活動	指導上の留意点と評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●既習学習の確認をする。 ●前時の授業の復習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TPCを用いて5分間の計算練習，答え合わせをする。 ・四角形の内角の和 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導し，わからない問題を教える。 ・様々な表現があったことを思い出す。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●五角形や六角形の内角の和は何度になるか考える。 ●多角形の内角の和に特徴があることを知る。 ●問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・五角形については生徒個人で考え，その後，小グループで意見を交換する。 ・六角形について小グループで意見を交換する。その後，IWBで求め方を説明する。 ・様々な多角形の内角の和から，n角形の内角の和を導く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> $180^\circ \times (n-2)$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> $180^\circ \times n - 360^\circ$ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・多角形の内角の和を公式を用いて求める。小グループで演習をして，互いに教えあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導の際，多くの考え方を確認する。 ・IWBを利用し，考え方を比較する。 ・個人の意見も取り上げ，様々な求め方を共有する。 ・多角形の内角の和を文字を使って表すことができたか。 ・残りの時間を演習時間とし，理解を深める。 ・$180^\circ \times (n-2)$を用いて問題を解くことができたか。
整理	<ul style="list-style-type: none"> ●本時のまとめ ●次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・n角形の内角の和を表す式を確認し，どのように使っていくかを確認する。 ・次時は外角の和を求めることを伝える。 	

【 研究協議 】

<授業者より>

- ・主に宿題の答え合わせなどで提示装置を使っている。
- ・2年前の授業では2台のテレビを使って生徒の意見を比較したがわかりにくいところもあり、IWBを使うと見やすくわかりやすかった。
- ・生徒主体の授業ができた。
- ・本校は2分前着席なので、授業のはじめ5分間を使って、iPadアプリ「教トレ」で自分の苦手なところを復習している。
- ・図形では視覚に訴えた授業がしていきたい。



<意見交換>グループ別協議の後、全体で発表・協議を行う。

(B グループ)

- ・5分間の計算を良くやっていたが苦手な生徒はわかる場所する傾向にある。
- ・グループはいろいろなグループを使っているそうだが、哲多中学校の生徒指導があってできることである。
- ・家庭学習にも関連して、授業でやった内容をどこまで印刷してわたすか。
- ・どの子も興味を持って授業に取り組んでいた。
- ・プリントは何度も書くと汚れるがiPadなら何度も書くことができる。
- ・iPadはインパクトがあるがノートに書くことも大切だ、バランスが大切。
(12月から家庭での持ち帰りでドリル学習をさせる)

(C グループ)

- ・グループの中での話し合いができ、協働学習のようであった

Q: 使用したアプリを教えてください。

A: neu.Annotate

- ・数学では実際あまり活用できていないが図形には有効だと思う

(D グループ)

- ・学習規律ができていた。
- ・発表を良く聞き友達と話ができていた



Q:表現力の向上に関してiPadと表現力の関係を教えてください。

A:文化祭でのビデを制作をしたがこれも一人一台持っているからできたことである。今後は英語でのプレゼンや他教科でも便利な道具としてiPadを活用する。

Q:授業での活用は？

A:発表態度を評価したり、他の発表を見て改善したりしながら鍛えていく。

Q:一般化の時の方法、生徒に考えさせるためにはどうすれば良かったか。

A:グループと話し合うこともできた

(Aグループ)

- ・IWBで考えが共有できていた
- ・iPadの活用で同じ時間でたくさんの思考ができた
- ・発表の時、透明ボードを使うことで前の意見と簡単に比較できた
- ・生徒の意見を簡単に印刷して配ることができるメリットもある
- ・一般化では図と式と言葉を結び付けることが必要、そしてそれが言語活動である。

<指導講評>新見市教育委員会 小林留美主査

- ・個々の課題に取り組みノートにも学習内容を残せていた。
- ・iPadの使用でイメージする力が養われ、考えたことが表現できた。
- ・家庭学習につながる取り組みができた。
- ・めあて・まとめがきちんとできており、めあてに向かってiPadを有効に使えていた。
- ・ICTの使用の振り返りをする。

(3) 英語

平成27年11月18日(水)

大佐中学校 3年

授業者 藤村 裕美 教諭

Jack David Champion

単元名 Power Up Speaking 5 買い物④「靴を買う」(開隆堂 Sunshine English Course 3)

(1) 本時のねらい

商品に対する自分の要望を比較級や色の表現を使って伝えたり、相手の要望に対して適切に応じたりできるように練習する。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 指 導 ・ 支 援	学 習 評 価
1. 英語であいさつをする。 2. 英語の歌を歌う。 3. 復習をする。 ・ iPad で個人練習をする。 ・ ペアを替えながら練習する。 4. 本時の活動内容と目標を確認し、デイリーシートに書く。	○ Good afternoon. / How are you? / weather / date ○ 大きな声で歌えるように促す。 (IWB) ○ 状況を想像しつつ読むように指導する。 ○ タイマーを使い、テンポ良く進行する。 ○ 活動内容の見本を JTE と ALT で示す。	
欲しい商品を正確に伝えたり、相手の要望に適切に答えたりしながら、買い物の会話をしよう。		
5. ペアで会話をする。 ・ 重要表現を確認する。 ・ iPad に Tシャツの画像を映し、ペアになって練習する。 6. グループになって発表しあう。 ・ 評価シートに記入する。 ・ 改善点を確認し、練習する。 7. 会話を iPad で撮影する。 ・ 自分のペアの会話を確認する。 ・ 自己評価をする。 8. まとめ ・ 他のペアの会話を見る。 ・ 重要表現を再確認する。 9. 本時の内容を振り返る。 ・ デイリーシートに記入する。 10. 次時の予告を聞く。	○ 黒板に重要表現を示す。 ○ その他の表現を紹介する。 ○ 表現、声の大きさなどが適切になるように机間支援する。 ○ 生徒の数が奇数の場合、ALT は生徒とペアになり活動を補助する。 ○ 評価シートの記入のしかたを、実物提示装置を使って説明する。 ○ iPad を使って、1ペアずつ交代で撮影するように指示する。 ○ 撮影が終了したら自分のペアの映像を確認して自己評価をするように促す。 ○ 何組かのペアに発表させる。 ○ 重要表現と会話の留意点を再確認する。 ○ 生徒の活動の良かった点を評価する。 ○ 英語であいさつをする。 次時の予告をする。	○ 自分の要望を、比較級や色の表現を使って伝えたり、相手の要望に対して適切に応じたりできる。(活動の観察・映像の確認)

【研究協議から】

<授業者から>

- ・ Ipad を利用するに当たり、録画機能を使うことにした。
- ・ 各機器の特性を活かした利用を考えた。
IWB・・・生徒の活動を助ける
iPad・・・手元の資料とする ex. Tシャツ、歌詞
実物提示器・・・ワークシートの記入方法を示す
黒板・・・流れや重要事項が残るようにする
- ・ 導入に時間がかかった。もっとテンポよく進めたい。
- ・ ビデオを自己評価に利用したが、全体で見るのもよいかもかもしれない。

<グループ協議>

(1)A、B、Cの三つの班で、授業観察カードを利用して協議

(2)意見交換（各グループからの報告）

<A グループ>

- ・ ICT 機器がうまく区別して利用できていた。
- ・ 流れの中で、T シャツだけでなく、バッグ、くつなどバリエーションをつけてもよいのではないか。
- ・ 全員が積極的に参加できていた。
- ・ 評価を、紙と Ipad での録画と両方で行っていたのが、生徒のモチベーション UP につながった。特に録画は、客観的に見ることができてよい。
- ・ 振り返りのためにも、持ち帰ることができれば、家庭学習につながる。

<B グループ>

- ・ テンポよくできていた。
- ・ コの字型の机の配置が参考になった。
- ・ 生徒のやる気が出ていてよかった。
- ・ もっと多くの生徒が前で発表できればよかった。
- ・ ICT 機器の役割が区別されていてよかった。

<C グループ>

- ・ Ipad の写真をうまく見せていた。
- ・ 生徒が楽しそうに活動していた。
- ・ 機器の操作がスムーズでよい。
- ・ 生徒同士だと、相互評価がゆるくなりがちである。

<指導講評>

- ・ テンポのよい授業、落ち着いた雰囲気できていた。
- ・ ほとんどの説明が英語できていた。会話・言語活動なら、全て英語でもよかったのでは。
- ・ デイリーシートの活用がきちんとできている。
- ・ ペア・ワークで、生徒が多くの英語を話し、聞いていたのが良い。
- ・ 自己評価の基準に、「買い物表現が使えるようになっているか」があるとよい。めあてと評価の合致が必要である。
- ・ 買い物ができるのが目標なので、コミュニケーション場面を広げるとよい。
- ・ 1時間のうちで、生徒に身につけさせたいことは何かを明確にして、それを達成できる活動内容にする。



(4) 保健体育

平成27年11月26日(木)

新見南中学校 2年

授業者 江藤 裕也 教諭

単元名 武道「剣道」

本時の目標 ①相手の動きに応じて、滑らかな動きで抜き技を行うことができる。

②資料を活用し仲間と協力して自分が挑戦する技のコツを見つけることができる。

	学習内容・学習活動	教師の支援・指導上の留意点	評価の観点・方法
導入	1 ランニングとラジオ体操を行う。	○けがの防止に備え、入念に行わせる。	
	2 垂れと胴の着装を行う。		
	3 あいさつ、出欠確認、健康観察を行う。	○出欠・健康状態を把握し、見学者へ指示をする。	
	4 着座、座礼を行う。		
	5 本時の目標、流れを確認する。	○本時の目標と流れについて説明する。	
	6 すり足、素振りを行う。	○大きな声を出して行わせる。	
	<p>○相手の動きに応じて、滑らかな動きで抜き技を行うことができるようにしよう。 ○資料を活用し、仲間と協力して自分が挑戦する技のコツを見つけよう。</p>		
7	面を着装する。		
	8 基本打突の練習をグループに分かれて行う。 協同学習 言語活動	<p>言語活動</p> <p>一本になる技について</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手のよい所を見つけ伝える。 改善する所を見つけ伝える。 <p>◆「努力を要する」生徒への手立て</p> <p>見本を示したり、見本の動画を見せたりすることで視点を明確にして、観察させる。</p> <p>○挑戦する技のポイントや練習方法を理解させる。</p>	相手の動きに合わせて有効打突になるような氣勢や打突、残心で基本打突をすることができる。 【技能(観察)】
9	基本となる応じ技の練習をグループに分かれて行う。 協同学習 言語活動	<p>◆「努力を要する」生徒への手立て</p> <p>練習方法や補助の仕方等が適切であるか観察し、状況に応じて言葉かけをしたり、練習方法を変えさせたりする。</p>	体さばきを用いて、応じ技の基本となる技ができる。 【技能(観察)】
	ICT クラスの小グループ(4~5人組)を作り、タブレットや資料を活用し、仲間の挑戦する技を補助したりして、合理的な動き方のポイントを見つける。 (抜き技) A 小手抜き面 B 面抜き胴		
まとめ	10 片付けをする。	○協力して素早く片付けさせる。	
	11 本時の振り返りをする。 (1)学んだこと気づいたことを記入する。 (2)友だちからのアドバイスの記入する。 (3)次時の課題を設定する。	<p>言語活動</p> <p>○本時の振り返りを学習ノートに記入させる。</p> <p>○次時の課題を設定し、学習の見通しを持たせる。</p> <p>○けが・体調の確認をする。</p>	学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。 【思・判(学習ノート)】
	12 あいさつをする。		

【研究協議から】

<授業者より>

剣道の応じ技を行った。応じ技の中でも基本とされている「面抜き胴」と「小手抜き面」をICTを効果的に活用した授業というテーマで行った。

自分の動きと見本の動きを見比べることで、自己の課題に気づくことができる。また、共同学習を取り入れることによってコミュニケーションを図ることができるとともに自分では気づかないポイントや練習方法などの意見が出てくるだろうと思い本授業を行った。

(ICTの活用場面)

- ① 本時の目標と授業の流れの提示
- ② 比較用の見本動画の提示
- ③ 授業の振り返り(授業中に撮影した生徒の動画を見せる。)



<参加者から>ICT活用に関わってのもののみ収録

- ・ICT機器は個別の学習には良いことである。
- ・自分の姿が見えることは良いこと
- ・安全な授業であった。
- ・小手抜き面や面抜き胴の技のポイントを明確にする。



(例)小手や面の交わり方を見よう (例)足を注意して見てみよう など

- ・iPadの動画は離れないと全身が写しにくい
- ・視覚に訴える授業で良かった
- ・今日の授業の他に、そのようにICTの活用ができるのか?
- ・外の授業、中の授業ともどの単元で活用できるのか
- ・まとめの時に生徒同士が撮り合った動画を選ぶとよいのでは。自分が選ばれたときの喜び



<指導講評>岡山商大 大谷教授・保健体育科 平井総括副参事

- ・実際に先生が見本を見せると良い。音やスピードを肌で体感できる。
- ・ICTは自己の振り返るのに良い。
- ・授業規律、話を聞く態度、片付けに積極的などがよかった
- ・伝統的な行動の仕方(結びの分化、礼法)がバランス良く行えるように。
- ・動画を見比べながら、話し合いができています。
- ・本時の目標の提示、本時のゴールの提示がよかった。
- ・振り返りの時にもう一度目標を提示できるとさらに良い。

(5) 技術

平成27年11月27日(金)

神郷中学校 2年

授業者 上村 憲吾 教諭

題材名 身近で使える物を製作しよう(1年生)

本時案(第二次 第7時)

(1) 本時の目標

- ・のこぎりを正しい使用方法に基づいて適切に操作することができる。〔生活の技能〕

(2) 展開

学習活動	教師の支援	学習評価
1 本時の目標について知る。	○タブレットPCを使い、どうすれば正確なのこぎりびきができるのかを考え、その技術を身につけることを伝える。	
基本的なのこぎりびきの技術を身につけよう。		
2 のこぎりびきの体験をし、正確にのこぎりびきをするためには、どのようなことに注意すればよいのかを考え、話し合う。 基礎・基本	○練習用の材料をのこぎりで切断して、うまくいかなかった点とその要因を考え発表させる。 ○教師からのこぎりびきの仕方の説明を聞く。 ・基本的な動作を確認する(チェックシート利用) ・特に、身体の向きと目線に注意させる。 ○のこぎりびきの基本姿勢を示した写真をモニターに映し確認させる。	
3 改善策や注意点を意識しながら本番の材料を切断する。	○二人一組になり、タブレットPCのカメラ機能で動画を撮り、それを見ながらどんなところを改善すればよいかを話し合い、それに気をつけながら切断する(何度か繰り返す)。 ・動画を撮る方向を確認させる(正面から) ・動画で確認し、チェックシートに記入させる。 【動画で確認するポイント】 ○準備段階 ・のこ身と身体の向きが平行になっている ・真上からけがき線を見ている ○切断中 ・真上から、けがき線とのこ身を見ている。 ・身体に沿ってまっすぐ引けている。 ○数名に、のこぎりびきの発表をさせる。 ・動画とチェックシートを紹介し、切り口の様子や感想を発表させる。 ○チェックシートや自分で気づいたポイントを確認しながらのこぎりびきをさせる。 ・安全面、材料の固定に留意させる。 ・机間指導をしながら細かいアドバイスをする。 ・切断面を下にして、直立するかを試し、正確に切断ができたかを確認させる。	○のこぎりを正しい使用方法に基づいて適切に操作することができる。 〔生活の技能〕 (切断した材料の検査) (ワークシート)
4 本時のまとめ・振り返りをし、次時の予告を聞く。	○まとめ・振り返りを行い、自己評価を記入させ、次時は切断を完了させることを予告する。	

【研究協議から】

<授業者から>

- ・技術科で生かせるICT授業は動画がいいのでは。自分の作業を客観的に見させる方が、口頭で説明するよりもわかりやすい。
- ・ドロップボックスで動画を入れて、ユーチューブ的な使い方を目指したい(容量の問題)。
- ・iPadを利用することで、生徒同士がアドバイスをしあうなど、協働学習ができていた。



<出席者から>

- ・委員会でもドロップボックスの動画様式を検討している。
- ・学習のスタンダードを踏まえた授業。
- ・小学校でどの程度ICT活用について準備しておけばよいか。
→ローマ字入力ができる等
- ・メタモジノートよりアイノートの方がいいのでは。
→一中ではメタモジノートは使用させていない
- ・技術科に関する動画はなかなか出てないので、これからでてくることを期待している。
- ・動画は実技教科で有効である。そして、教師の実演も効果的であった。
- ・エクセル(表計算ソフト)の学習は必要では。
→中学校では無くなった。小学校で教えるか?
- ・技術の時間数が減っているが、もの作りは楽しそうにしていたので安心した。



(6) 美術

平成27年12月4日(金)
 哲西中学校 2年
 授業者 酒木 摩利子講師

題材名 日本の美意識 ～飾り盆の制作を通して～

IWBやTPCのアプリケーションを使って、効果的に図柄の配置を
 本時の目標 設定することができる。【発想や構想の能力】

学習活動	指導上の留意点	ICTの活用と評価
1 前時の学習を振り返る。 2 説明を聞いて本日の作業の見通しを立てる。 3 飾り盆の実物大図案を作成する。 4 図案を発表する。 5 次回の用意や内容を確認する。	○前時の作業手順をIWBで振り返り、様々な表現があったことを思い出させる。 ○TPCを使い、構成のシュミレーション学習をしたことや使う和紙を選んで盆に着色し、カメラアプリに保存したことなどを確認させる。 ○本日の作業の流れを説明する。 ○飾り盆の実物大図案をTPC上に作成させる。 ○Dropbox内に用意した図案をノートアプリにダウンロードさせる。 ○背景透過アプリ・ピックカラーアプリを効果的に使用させる。 ○机間指導の際、使用方法に手間取っている生徒を支援する ○工夫したことや良いと思うことを中心に発表させる。 ○早く完成した生徒1、2名に完成した図案をIWB画面で発表させる。	・IWB ・TPC ◇アイデアを発想し、イメージを表現しようとしているか。 【関心・意欲・態度】 (行動観察) ◇材料をいかす工夫をし、表現の構成を練っているか。 【発想や構想の能力】 (行動観察) ・IWB ・TPC

【研究協議から】

<授業者から>

・iPad を授業でどう使おうかと思っていた。授業の中で活用できるアプリとして Pic コラージュ、スケッチパッドなどがある。カメラで取り込んだ画像を、背景と手前の画像でデザインを考えたり、作品作りの構想を練ったりすることができる。



・日本文化のお盆の製作で使うこととする。工作では難しい切り貼りや難しいデザインの創作が、容易にできると考えた。また教材のお盆のサイズが、四分円にするとちょうど iPad の大きさに合致した。全体を見ながら構成を考えていくことは難しかったが、やり直しが容易にできるのはよかった。しかし容易にやり直せるが故にデザインが決まらず、時間のかかる生徒もいてメリットとデメリットの両方があった。和柄に親しみ生徒たちも楽しく授業に参加できていた。

<協議> [○は質問、→は解答を示している]

・子供たちが楽しそうに作業している。アプリがたくさんあって有効に活用できている。iPad を使って授業時間の短縮や、生徒が考える作業～製作の一連の流れが確立している。お盆上で自分を表現できていた。



・iPad は便利でやり直しが簡単にできる利点があるが、デザインが決まらず時間のかかる生徒もいたので、時間設定をしておく良かったのではないかな。

○iPad を直接つないで発表した意図は？

→仕上がりの進度に差があった。他の生徒に紹介する発表のみだったので、直接つないだ。(Dropbox の使用は考えなかった)。

生徒のプレゼン能力が高いので、iPad を使った方がより効果的に発表できると考えた。

○全体ではなく四分円にされたのは、どんな工夫・効果を狙ったのか？

→四角の景色を円に入れてみることを意識させたかった。何度かやり直す中で、よりよい配置ができていた。

・生徒がしっかりアプリの機能を使って授業を進めている。

○構図を考える作業をスムーズにしていたので、何か秘訣はあるのか？

→事前にお盆の色は、いくつか試してみた。和柄については、事前に既存のものをインターネットで調べて見させた。和柄の魅力を初めに感じさせた。

○授業で有用なアプリや使い方を教えてほしい。



→実技・体育・・・カメラ（画像・動画）、P i cコラージュ、ストップウォッチ（計測）
自分の姿を見てまとめるために

5教科・国語・理科・・・Dropbox、ニューアノテート

授業でワークシートをまとめたり、絵巻物を描かせたりする。問題なども
配信している。 インターネットでの検索活動

・新見市は、I C T教育が進んでいると聞いてはいたが、授業を見せてい
ただいていろいろなことが衝撃的だった。

○生徒一人一人が持っている iPad の機器管理はどうしているか。使い方
のモラルはどうか。使いこなせるスキルの問題。ワークシートの記入は、

授業後どうやって見るか。打ち込みか手書きか。などの質問が出たが、これについては、
各校とも実態は理解いただけていると思うのでここでは省略する。

○I C T支援員は常勤か。

→常勤の支援員2人で6校を巡回している。時々市教委職員が補助することもある。支援員
の増員は要求している。

・総務省がI T国家戦略を打ち出していたので期待をしていた。子供たちが頑張っている様子
が、感想から伝わってきたので良かった。子供たちのスキルが高く、使いこなせている感じが
した。特別支援教育に有効性を感じたが、校内では職員内に温度差があり、そこに難しさを感じ
ている。

・自分は美術担当であり、I C T教育に興味がある。H 2 9年度に岡山市が
全国大会の発表が当たっている。先進的な発表ができないかと思い授業を見
させてもらいに来た。

・日本の美意識という題材から、和菓子のデザインをしたり、インターネット
で美術館の鑑賞をしたりするのかと思った。

・天神山プラザで美術展があるが、I C Tで情報発信したい。

<指導講評>新見市教育委員会 竹元主幹

・哲西中学校の生徒が、授業に熱心に取り組んでおり素晴らしいと感じた。酒木先生にも非常
勤講師であるにもかかわらず、授業をしていただき感謝している。

・授業は、I W Bで学習の流れ・作業や活動の内容を示していたが、常
に見える状態にしていた方が良いのではないか。先生が言わなくても生
徒が互いに話し合いながら、課題に取り組んでいるのは日頃の学習の成



果だと思う。協働学習の場面を、もっと授業の中でも仕組んで良いのではないか。

・授業自体の学習スタンダードは、確立していたと思うが、もう少しメリハリのある学習になると良いと思った。ICTの利活用アプリを使う良さは感じるが、自分でデザインを決めることに迷ってしまう生徒もいた。

・ICT機器の活用では、それを使って有効な面がないとだめだ。今回は、「やり直しができる」「時間短縮」「データが保存できる」などがあげられる。自分がやりたい授業の中で、どうICT機器を活用していくか考えてほしい。例えば、技術の製作イメージ、国語の短歌・文章を絵でイメージさせる、家庭科の部屋のデザインなどがある。iPadを文房具の感覚として利用してもらいたい。

・ICT機器の活用が学力向上に、どのように貢献したか検証していきたい。

※※※※※※ 今後の新見市ICT活用教育推進事業の予定 ※※※※※※

- 12月25日(木) 情報教育部会(中学校のみ)を実施する。
会場：教育会館
内容：各学校の教員の活用状況や活用力についての調査内容の検討
ICT活用研修
- 1月上旬 第2回新見市教育情報化推進協議会
会場：まなび
内容：新見市ICT活用教育推進事業授業研修会のまとめ
教員の利活用状況調査結果
他
- 3月上旬までに 情報教育部会全体会を実施する
会場：教育会館
内容：今後の小学校を含めた展開について

まとめ